

# 2014年度傷害報告 集計結果

(一財)東京都スキ一連盟  
総務本部 安全対策部

## 2014年度の傷害報告統計から

今年度は2013年度に比し受講者数が1,000名程減少したにも関わらず、受傷率(2014 ; 0.31%、2013 ; 0.30%)は変化が見られなかった。

傷害事故が起きているのは上級者がフリーもしくは練習中で混雑してない中急斜面での転倒。尚且つケガをした80%強が40歳以上であり、年々この年齢層の割合が増進している。

障害部位では頭頸部がヘルメットの着用の影響か大幅な現象が見られる反面、2014年度は下肢の傷害、特に膝の靭帯損傷が大幅に伸びている。

傷害事故を減少させるのは個人の自覚に寄るところもあるので、スキー環境の変化に身体がついて行っているか一度振り返って見てはいかががでしょうか。

# 2014年度傷害事故集計表

提出441件 受講者数 4,792名 受傷者数 16名 受傷率 0.31%

設問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	合計
傷害保険	01 自己傷害保険	3	02 対人賠償 対物賠償	1	03 対人対物賠償	4	自己+対人 自己+対物	2	自己+対人対物	3	15
性別	04 男性	10	05 女性	6							16
年齢	06 6歳未満	0	07 7-12	2	08 13-15	0	09 16-20	1	10 21-25	0	
	11 26-30	0	12 31-40	0	13 41-50	4	14 51-60	4	15 61歳以上	5	16
	16 指導者	4	17 上級者	7	18 中級者	2	19 初級者	3	20 初心者	0	16
技術レベル	21 大きい	0	22 普通	12	23 小さい	3					15
滑走日数	24 0-3	6	25 4-6	3	26 7-10	3	27 11-15	1	28 16-20	2	
	29 21-30	0	30 31日以上	0							15
	31 充分	14	32 不充分	2							16
休養	33 充分	16	34 不充分	0							16
準備体操	35 捻挫	4	36 骨折	4	37 脱臼	1	38 切創	0	39 打撲	2	
傷害名	40 靭帯損傷	6	41 擦過傷・刺創	1							18
	42 前頭部	0	43 後頭部	0	44 顔面	1	45 頸部	0	46 肩部	3	
	47 上腕部	1	48 前腕部	0	49 手指部	1	50 胸部	1	51 背部	1	
傷害場所	52 腹部	1	53 腰部	0	54 大腿部	1	55 膝部	6	56 下腿部	2	
	57 足首	1	58 その他	0							19
	59 7日未満	2	60 8-14	3	61 15-21	1	62 22-30	3	63 31-60	1	
全治日数	64 61-90	2	65 91以上	1	66 未受診	0					13
	67 講習中	9	68 自由時間	4	69 練習中	3	70 競技中	0			16
発生状況	71 9時まで	1	72 12時まで	5	73 15時まで	8	74 17時まで	2	75 ナイター	0	
	76 その他	0									16
雪質	77 粉雪	2	78 湿雪	2	79 新雪	2	80 深雪	0	81 ザラメ	0	
	82 アイスバーン	0	83 踏み固めた雪	10	84 溶けかけた雪	0	85 その他	0			16
	86 緩斜面	2	87 中斜面	9	88 急斜面	4					15
斜面の傾斜	89 スムーズ	5	90 ギャップ・こぶ	3	91 ラフ	5	92 深雪	1			14
斜面の状況	93 混雑	1	94 普通	7	95 すいていた	7					15
ゲレンデ状況	96 良い	5	97 普通	9	98 悪い	1					15
ゲレンデ整備	99 自己転倒	12	100 衝突	3							15
原因	101 回転失敗	9	102 人・物の回避	0	103 スピート・オーバー	1	104 技術不足	1			11
	105 自分から	1	106 衝突された	3							4
衝突相手	107 人	3	108 物(人以外)	0							3
相手の状況	109 講習中	1	110 自由時間	0	111 練習中	2	112 競技中	0			3
ビンディング	113 はずれた	5	114 はずれない	10							15
調節方法	115 知っていた	14	116 知らない	1							15
調整者	117 自分で	2	118 販売店	10	119 指導員	1	120 パトロール	0	121 知人・友人	0	
	122 その他・不明	2									15
開放強度	123 強すぎ	1	124 適切	13	125 弱すぎ	0					14
流れ止め	126 ブレーキ	0	127 ストラップ	0	128 その他	0	129 無し	0			0

# 傷害事故報告集計

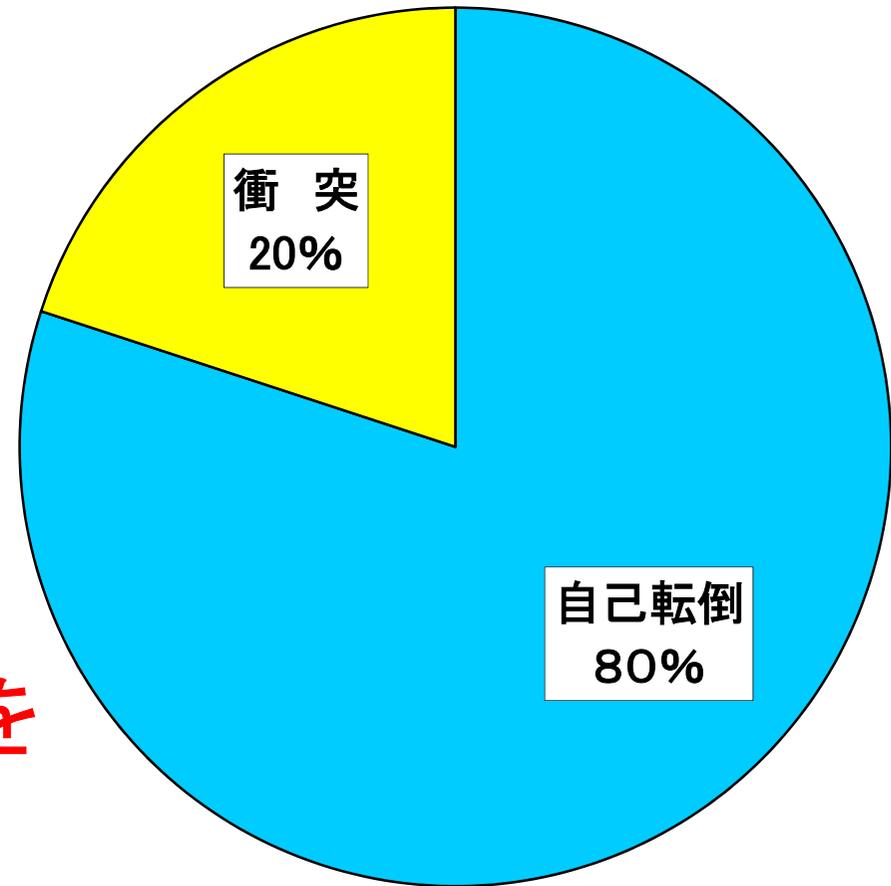
- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

# 受傷原因

衝突事故  
減少傾向から増化  
自己転倒優位が続く

↑  
講習中の統計

無理のない技術指導を

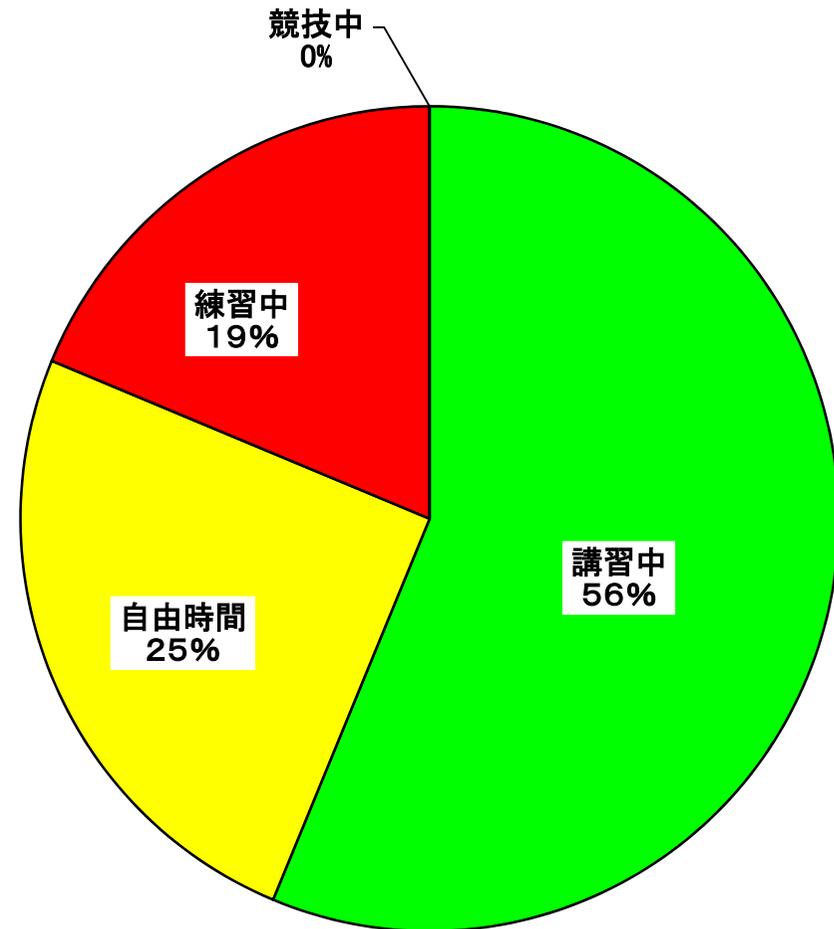


# 傷害発生時の状況

- ・講習中の事故が圧倒的に多い
- ・自由時間や練習中にも事故に遭遇



- ・生徒の安全確保を
- ・単独でも事故を防げる技術/安全指導も

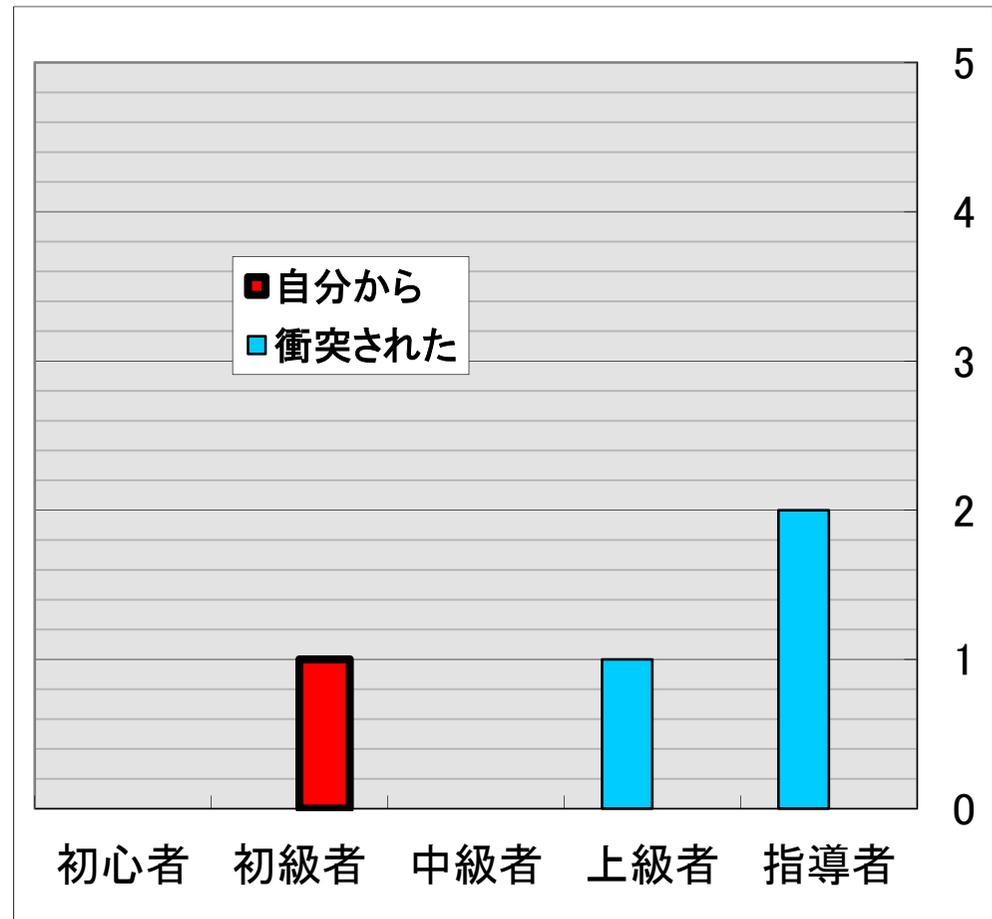


# 衝突時の状況

周囲への注意が疎かに

◎上級者・指導者の  
周囲への注意が重要

◎初級者の技量不足  
(道具の進化が原因か!?)



# 傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

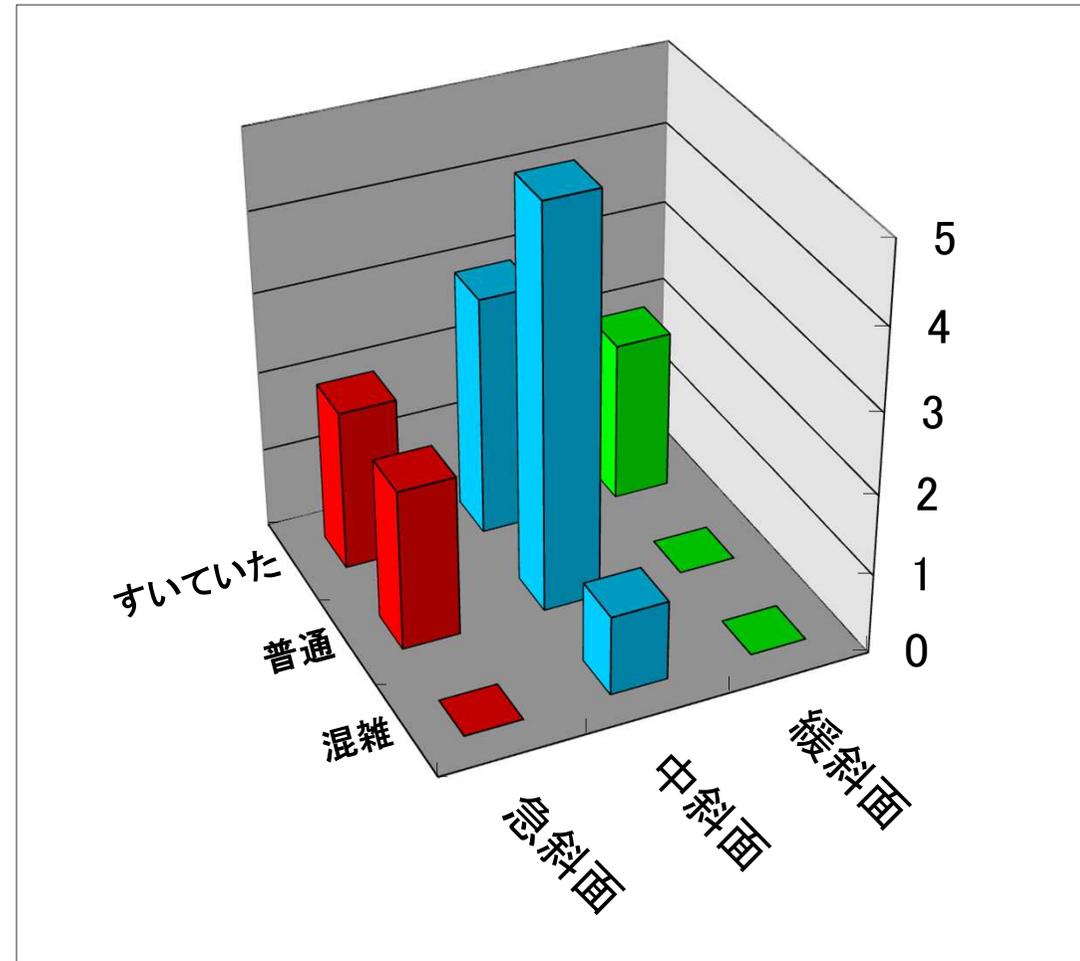
# 斜度、混雑状況と傷害度数

混雑していない

中・緩斜面で事故が多い

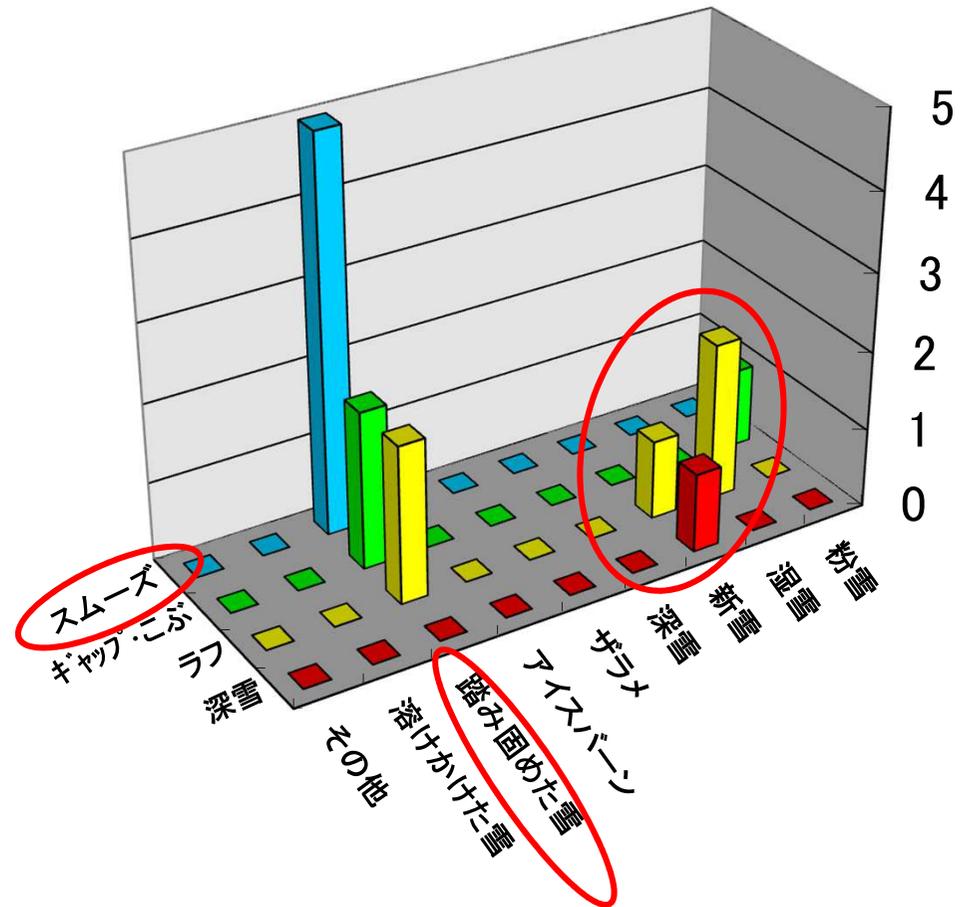
正しい状況判断

- ・ 課題の与え方
- ・ スタート前の安全確認



# 雪質、斜面状況別傷害事故度数

- 踏み固めた  
スムーズな斜面  
で圧倒的に多い
- 悪雪への対応  
バックカントリー  
への関心が高  
まっていることも  
要因か？



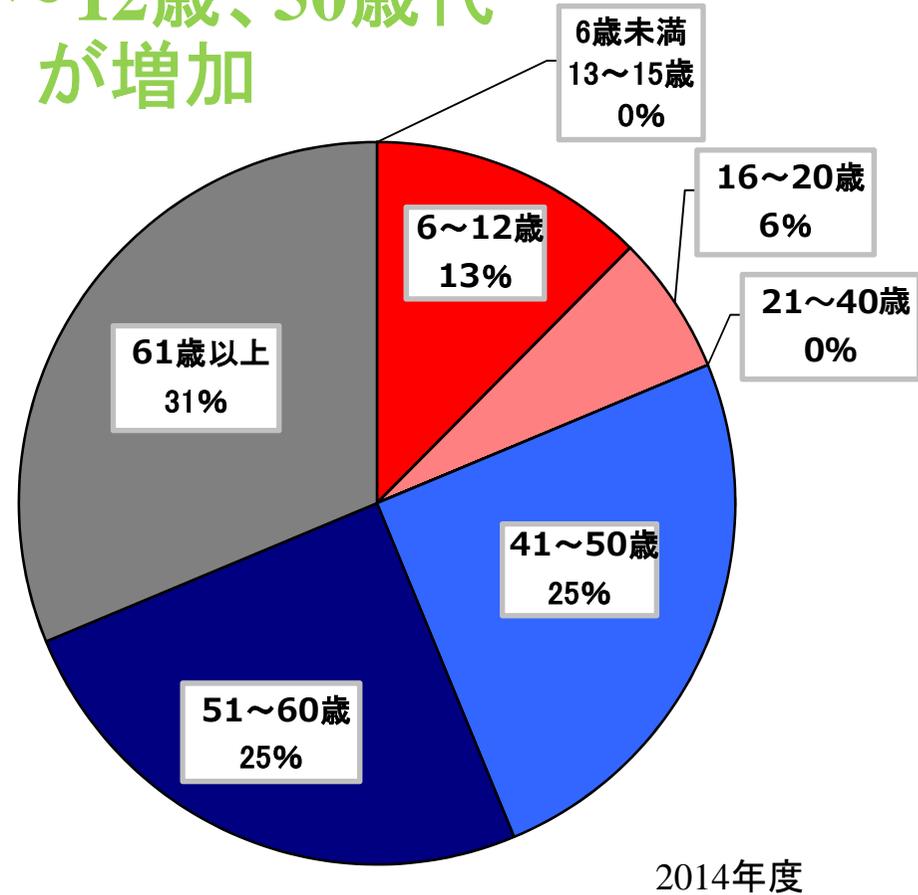
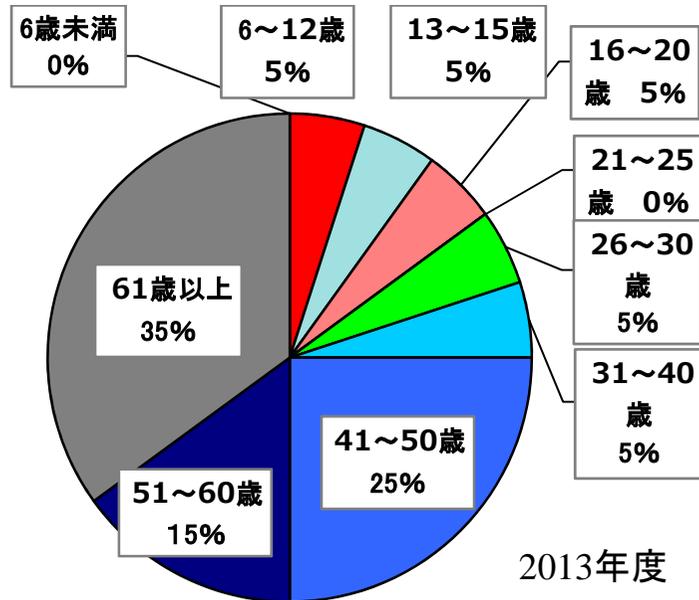
# 傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

# 全受傷者に対する年齢層別比率

受講者の  
年齢分布を反映して  
40歳代から上に広く分布

6～12歳、50歳代  
が増加

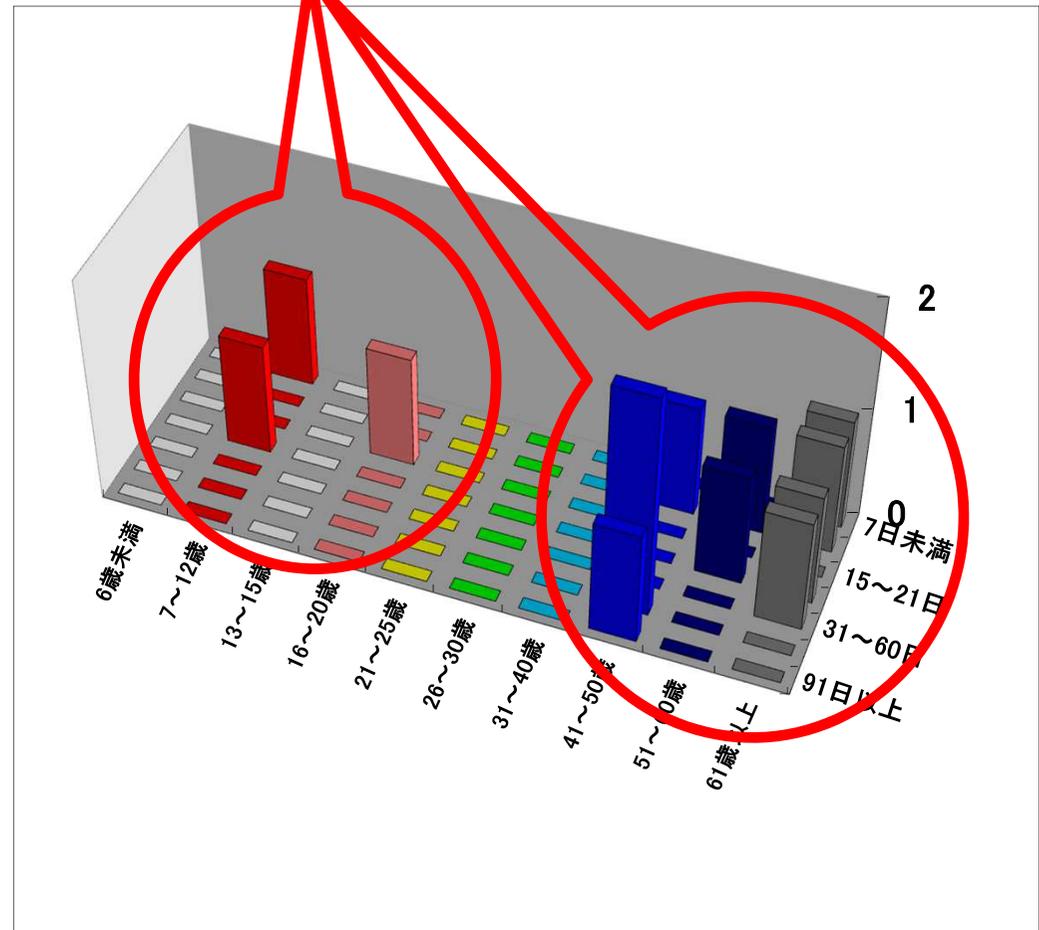


# 年齢と障害重度との関係

若年層と中高年に二極化

中高年は重傷に至る場合も

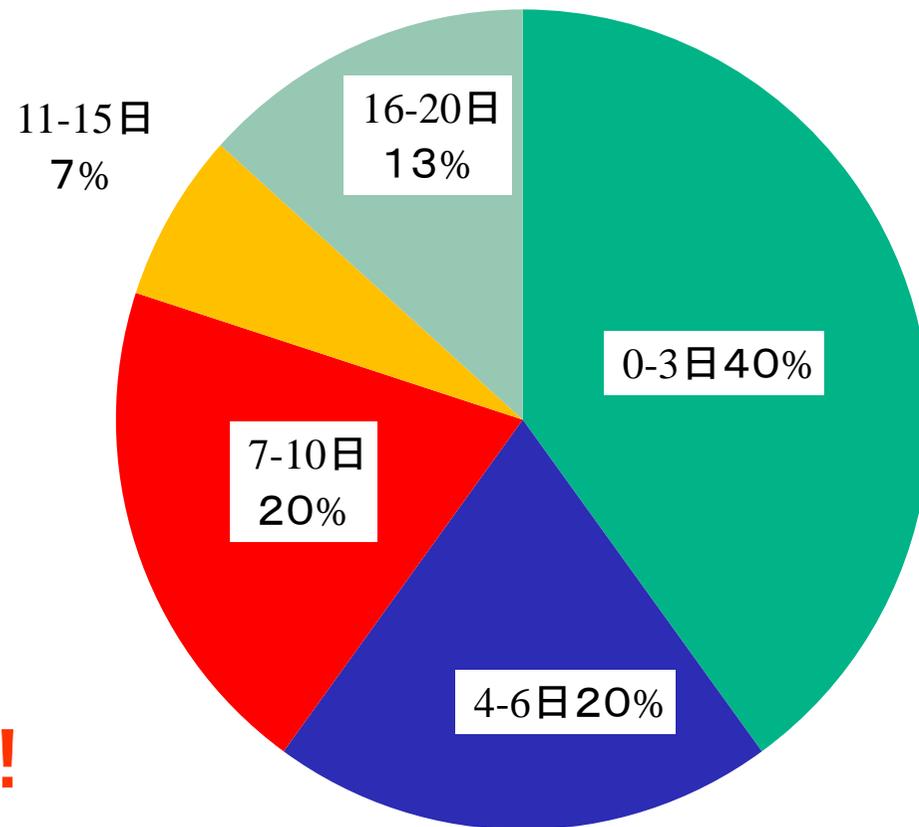
運動能力・体力  
自己の意識と  
実際との乖離



# 受傷までの滑走日数

滑走日数が  
少ないうちほど、  
傷害事故が多い

思い出すまで  
無理をしない、  
させない。  
思い出しても  
気を引き締めて！

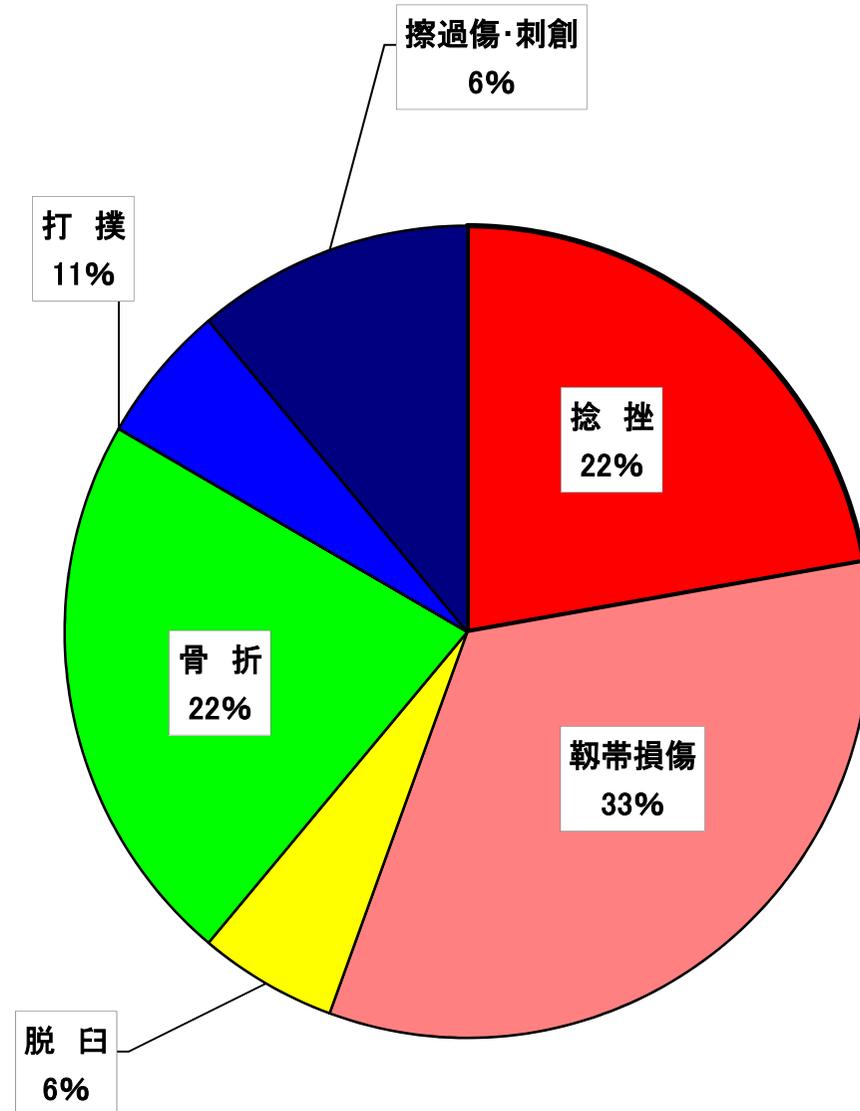


# 傷害事故報告集計

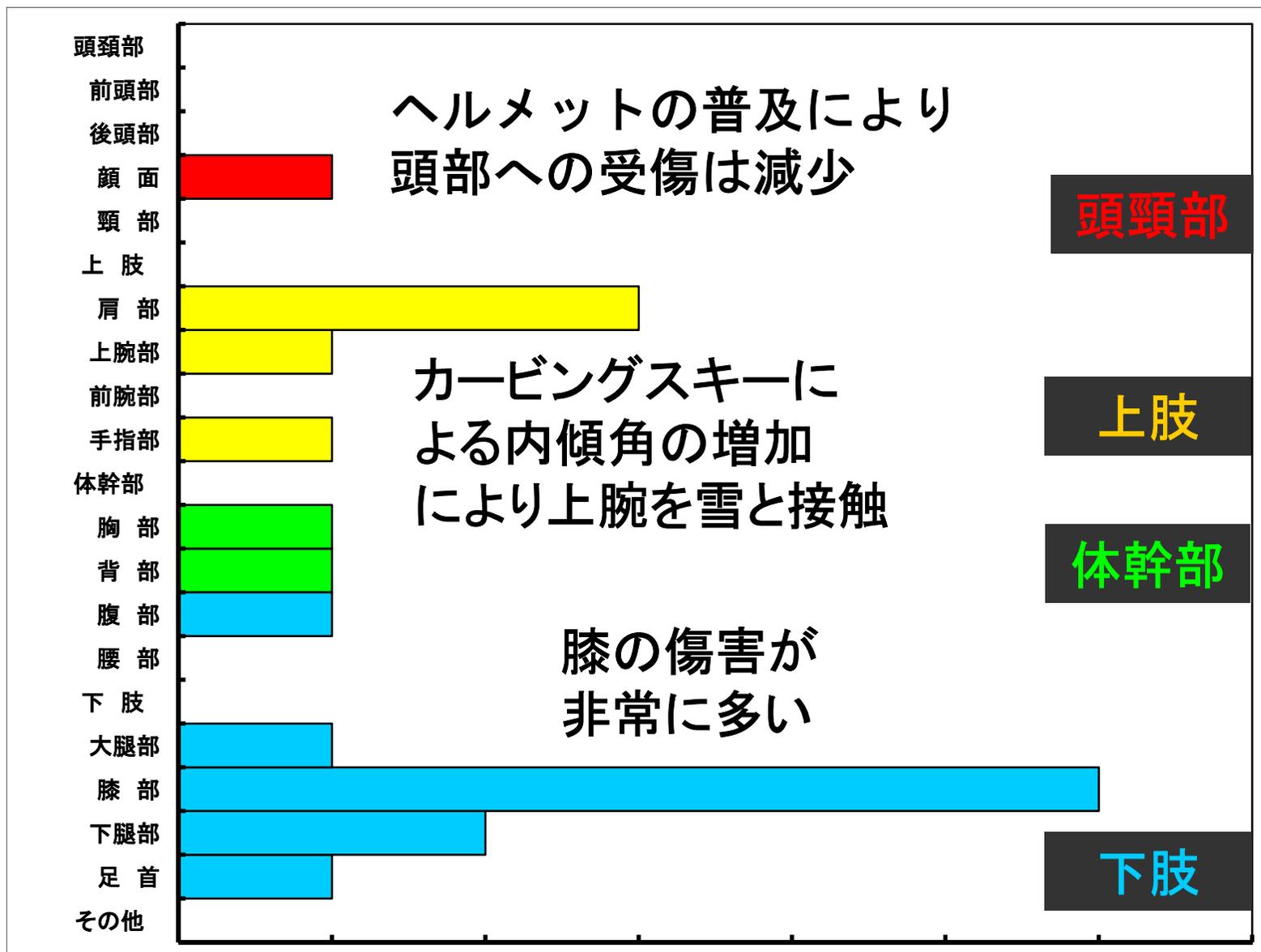
- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

# 障害の種類

カービングスキーの普及により  
転倒による打撲、捻挫  
靭帯周囲の損傷の他  
骨折が多い。



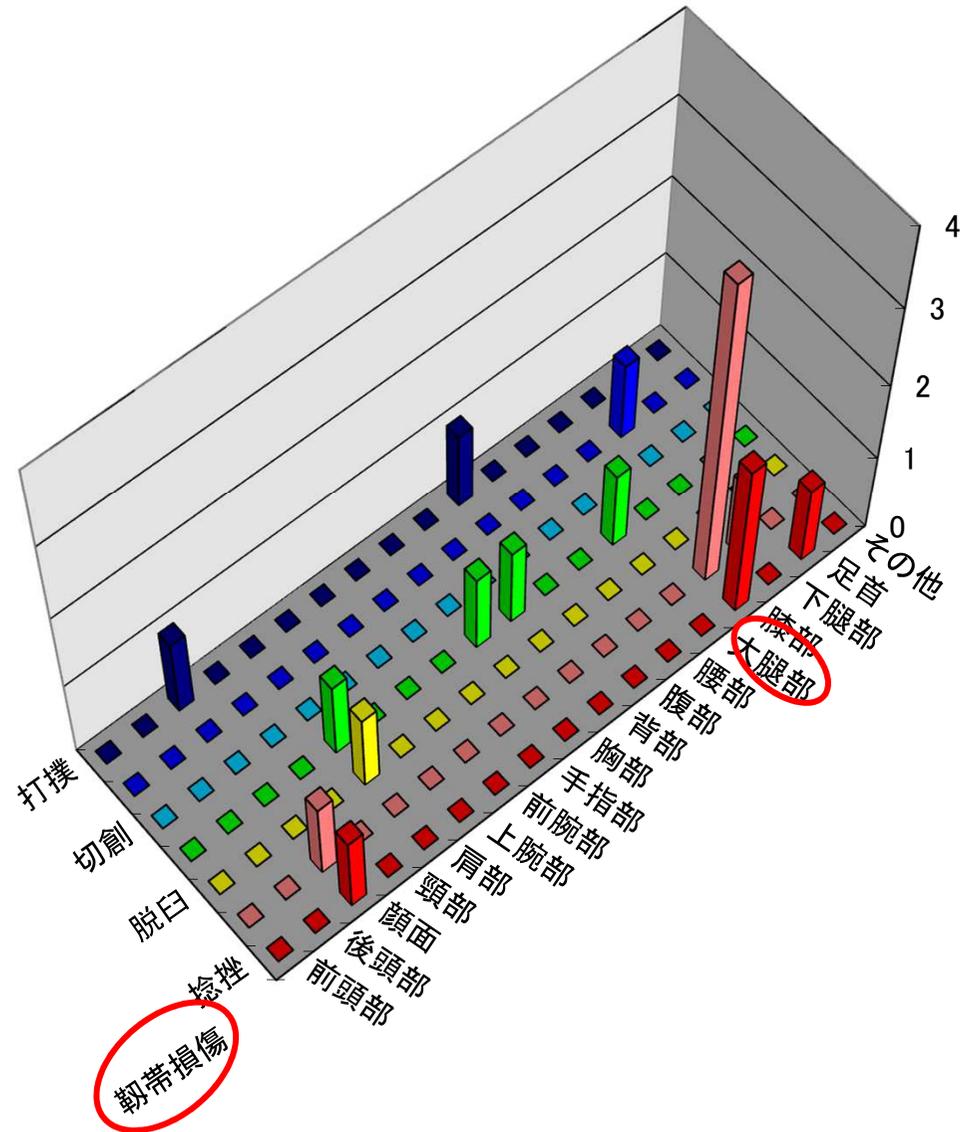
# 受傷部位



# 傷害部位と外傷の種類

- 膝関節の靭帯損傷、が多い

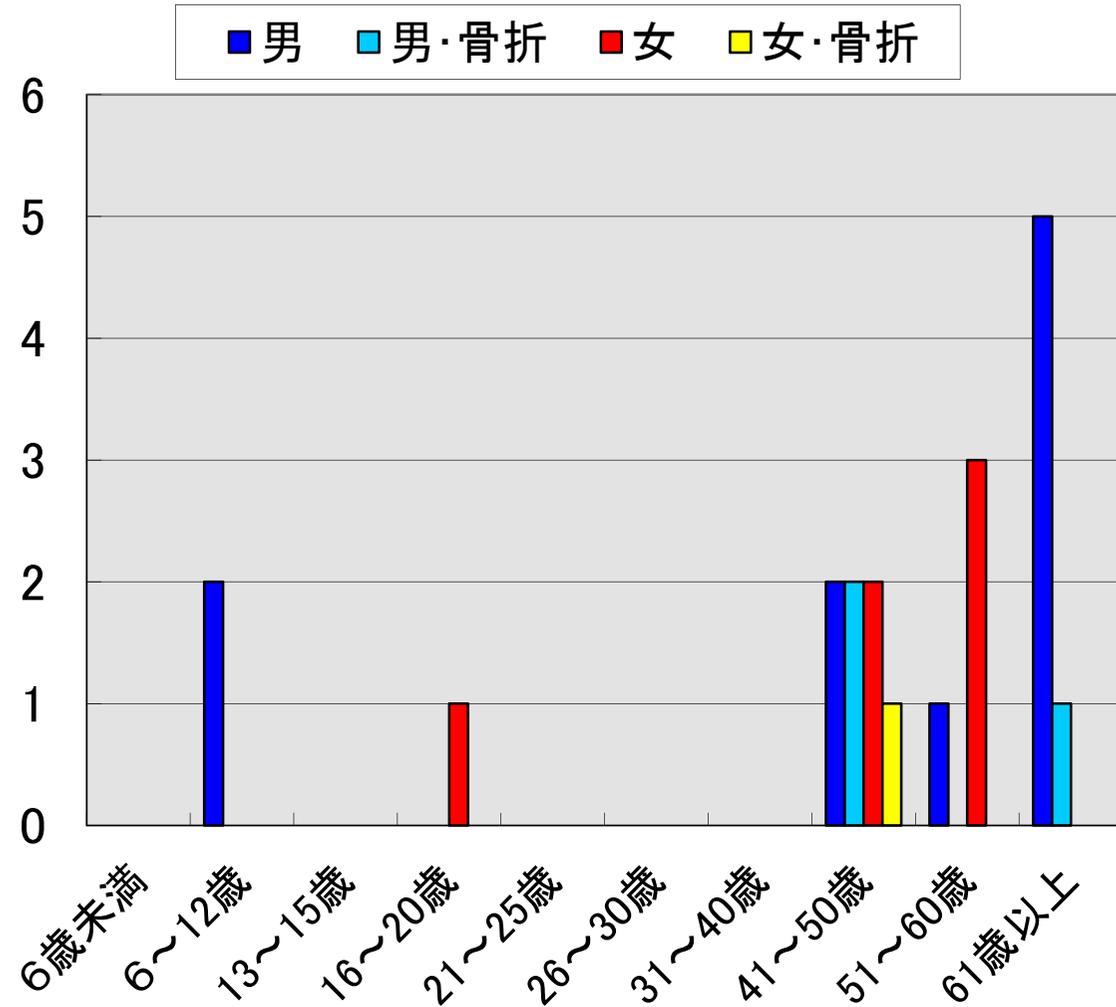
スキー操作技術の  
多様化への対応



# 年齢別、性別の骨折の割合

高齢者の傷害・骨折が多い

年齢に合わせたスキー操作を提案し無理な操作による傷害防止が必要



# 傷害事故報告集計

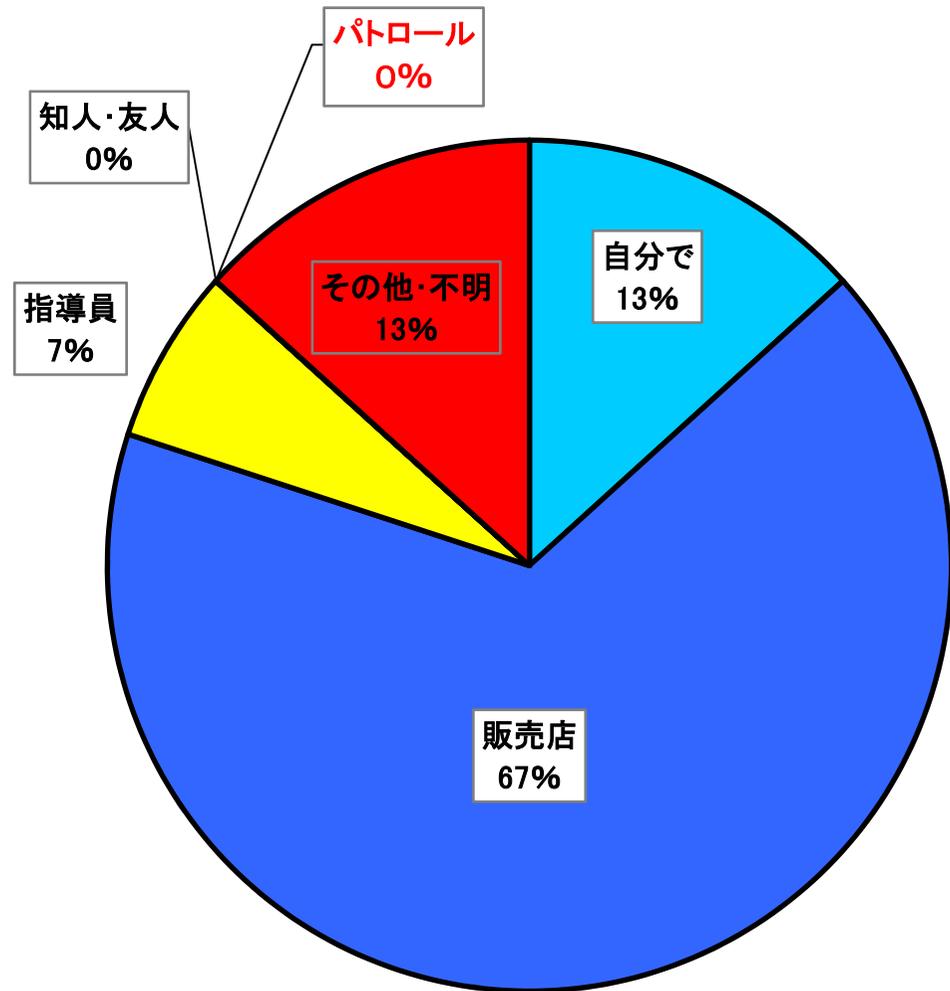
- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

# ビンディングの強度

強度は概ね適切

用具の進化が  
伺える。  
カービングスキーの  
ための滑走技術の  
浸透

PL法については  
引き続き注意喚起

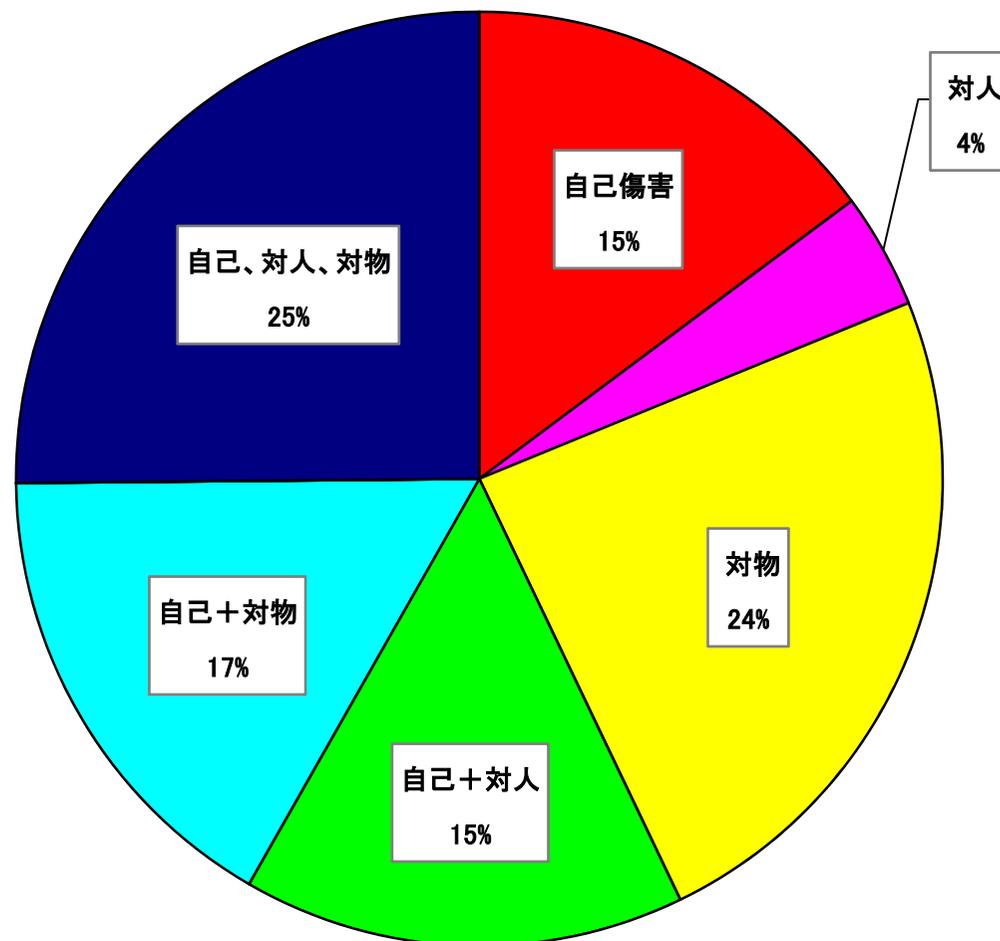


# 障害保険の種別

事故傷害と対人のみ  
が減少

自己傷害・対人・対物  
の3点セットが  
次第に増加

掛け金は高くない  
3点セットで!!



# 傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

# スキー学校での配慮事項

- ・ 受講生の状況把握の重要性
- ・ 他の講習との位置関係に要配慮
- ・ 混雑していない中斜面、緩斜面は要注意
- ・ 用具の選択、調整の指導
- ・ 適切な保険

# 指導者の配慮事項

- ・ 指導者はヘルメット・帽子をかぶっていますか？
- ・ 講習場所の安全に配慮していますか？
- ・ ストックを振って合図していませんか？
- ・ 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- ・ 多人数を一列で滑らせていませんか？
- ・ リフトのセーフティバーの正しい使い方、ストックの安全な持ち方を指導していますか？
- ・ 各指導者は事故に対処できますか？
- ・ 事故時の連絡体制を確立してありますか？

# 報告書：特に重要な記入箇所

㊦ - 3

財団法人 東京都スキー連盟会長 殿

## スキー傷害事故報告書

別紙記入要領を参照のうえ、必要事項を記入し **スキー学校報告書と共に必ず提出**

また、事故発生時は、負傷者1名につき1枚提出してください。  
この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号

検定共催番号

団体番号

団体名:

\_\_\_\_\_

実施期間: 20 年 月 日 ( 曜日) ~ 20 年 月 日 ( 曜日)

実施場所: 道・県 / スキー場

講習総人数:  名 講習班数: 班 / 1班平均: 名

安全対策担当者氏名: \_\_\_\_\_

Q1

傷害事故発生

有

無

→ ご協力ありがとうございました。

傷害事故発生日: 年 月 日 ( 曜日) / 天候: \_\_\_\_\_

# 報告書：特に重要な記入箇所

傷害事故発生日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日（ \_\_\_\_\_ 曜日） / 天候： \_\_\_\_\_

Q2		Q3		Q4		Q5		
Q6		Q7		Q8				
Q9							41→	Q10
Q11							44,58→	Q12
Q13								
							死亡	
Q14		Q15		76→	Q16			
		Q17		85→	Q18			
Q19		Q20		Q21		Q22		
Q23		99→	Q24					
		100→	Q25		Q26			
				106→	Q27			
Q28		Q29		Q30		122→	Q31	
Q33		Q34						
Q35								
Q36								

ご協力ありがとうございました。